

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態																																
看護理論	1	前期	2	講義 30時間																																
担当教員	休波茂子																																			
授業概要	実践科学としての看護学とその発展について、看護モデル及び看護理論を中心に歴史的・特性的・学際的に把握する。さらに、看護モデル及び看護理論に関わる看護知識体系の構造を理解し、看護実践や教育・研究に効果的に活用できる能力を養うために、著名な看護モデルや理論についてクリティックを行う。																																			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護理論に関する看護知識体系の構造について説明することができる。 2. 看護理論を看護実践、教育、研究に活用する方法について説明することができる。 3. 看護モデルまたは看護理論のクリティックができる。 4. 看護理論及び看護モデルの看護実践への貢献について述べられる。 																																			
履修条件	特になし																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>理論とは何か、看護知識体系の開発の流れについて</td></tr> <tr><td>2</td><td>主要な看護理論について</td></tr> <tr><td>3</td><td>中範囲理論について</td></tr> <tr><td>4</td><td>看護モデルおよび看護理論のクリティックの方法</td></tr> <tr><td>5</td><td>特定の看護モデルまたは看護理論のクリティックの実際 (Roy 適応看護モデルの理論分析)</td></tr> <tr><td>6</td><td>特定の看護モデルまたは看護理論のクリティックの実際 (Roy 適応看護モデルの理論分析)</td></tr> <tr><td>7</td><td>特定の看護モデルまたは看護理論のクリティック(ニード論)</td></tr> <tr><td>8</td><td>特定の看護モデルまたは看護理論のクリティック(人間関係論)</td></tr> <tr><td>9</td><td>特定の看護モデルまたは看護理論のクリティック(システム論)</td></tr> <tr><td>10</td><td>特定の看護モデルまたは看護理論のクリティック(システム論)</td></tr> <tr><td>11</td><td>特定の看護モデルまたは看護理論のクリティック(システム論)</td></tr> <tr><td>12</td><td>特定の看護モデルまたは看護理論のクリティック(現象学)</td></tr> <tr><td>13</td><td>特定の看護モデルまたは看護理論のクリティック(文化人類学)</td></tr> <tr><td>14</td><td>看護理論及び看護モデルの看護実践への貢献(1)</td></tr> <tr><td>15</td><td>看護理論及び看護モデルの看護実践への貢献(2)</td></tr> </tbody> </table>				回	内容	1	理論とは何か、看護知識体系の開発の流れについて	2	主要な看護理論について	3	中範囲理論について	4	看護モデルおよび看護理論のクリティックの方法	5	特定の看護モデルまたは看護理論のクリティックの実際 (Roy 適応看護モデルの理論分析)	6	特定の看護モデルまたは看護理論のクリティックの実際 (Roy 適応看護モデルの理論分析)	7	特定の看護モデルまたは看護理論のクリティック(ニード論)	8	特定の看護モデルまたは看護理論のクリティック(人間関係論)	9	特定の看護モデルまたは看護理論のクリティック(システム論)	10	特定の看護モデルまたは看護理論のクリティック(システム論)	11	特定の看護モデルまたは看護理論のクリティック(システム論)	12	特定の看護モデルまたは看護理論のクリティック(現象学)	13	特定の看護モデルまたは看護理論のクリティック(文化人類学)	14	看護理論及び看護モデルの看護実践への貢献(1)	15	看護理論及び看護モデルの看護実践への貢献(2)
回	内容																																			
1	理論とは何か、看護知識体系の開発の流れについて																																			
2	主要な看護理論について																																			
3	中範囲理論について																																			
4	看護モデルおよび看護理論のクリティックの方法																																			
5	特定の看護モデルまたは看護理論のクリティックの実際 (Roy 適応看護モデルの理論分析)																																			
6	特定の看護モデルまたは看護理論のクリティックの実際 (Roy 適応看護モデルの理論分析)																																			
7	特定の看護モデルまたは看護理論のクリティック(ニード論)																																			
8	特定の看護モデルまたは看護理論のクリティック(人間関係論)																																			
9	特定の看護モデルまたは看護理論のクリティック(システム論)																																			
10	特定の看護モデルまたは看護理論のクリティック(システム論)																																			
11	特定の看護モデルまたは看護理論のクリティック(システム論)																																			
12	特定の看護モデルまたは看護理論のクリティック(現象学)																																			
13	特定の看護モデルまたは看護理論のクリティック(文化人類学)																																			
14	看護理論及び看護モデルの看護実践への貢献(1)																																			
15	看護理論及び看護モデルの看護実践への貢献(2)																																			
教科書	なし																																			
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ J.Fawcett / 太田喜久子ら監訳(2008)：看護理論の分析と評価 改訂版、医学書院 ・ L.C.Walker ら / 中木高夫他訳(2008)：看護における理論構築の方法、医学書院 ・ S.C.Roy / 松木光子監訳(2010)：ザ・ロイ適応看護モデル第2版、医学書院 ・ 看護理論家の業績と理論評価(2015)：筒井真優美編集、医学書院 																																			
評価方法・基準	プレゼンテーション及び討議(60%)、課題レポート(40%)から総合的に評価する。																																			
事前・事後学習	<p>事前学習：①各自興味関心ある看護理論及び看護モデルについて選択しクリティックして授業に臨むこと。②事前に各自興味関心ある理論の分析評価、研究と実践への応用についてまとめて授業時に配布すること。③効果的なプレゼンテーションを行うために理論の分析評価の方法について必ず理解しておくこと。</p> <p>事後学習：①その日に行った理論については、看護実践及び看護研究にどのように応用できるのか、まとめておくこと。②担当した理論についてはレポートしてまとめて提出すること。</p>																																			
備考	特になし																																			